

平成30年4月1日

関係者様

神奈川県中体連剣道専門部

大会時の選手のマナーについて

<団体戦の場合>

1, 試合前

- (1) 団体戦は、監督1名、選手5名、補員2名、外部指導者1名がベンチ入りできる。
- (2) 入退場は、チームが揃った状態で行うのが望ましい。
- (3) 試合場には、竹刀、竹刀袋を持参し竹刀スタンドは持ち込まない。
- (4) 団体の礼の前後や選手交代時における余計な所作は改める。
※円陣を組んでの発声やパフォーマンス・胴づき等
- (5) ベンチの整列は、下記の要領で行う。

試合場

次選手控え場所

次選手控え場所

補員1
補員2
外部指導員

監	大	副	中	次	先
督	将	将	堅	鋒	鋒

先	次	中	副	大	監
鋒	鋒	堅	将	将	督

補員1
補員2
外部指導員

2, 入場時

- (1) 初めからベンチ入りできる場合
 - ①全員で畳の後ろで防具を持ったまま1礼し、着座し先鋒・次鋒は、畳の上で座って面をつける。
 - ②相互の礼の後、ベンチ前で再度1礼する必要はない。
- (2) 前の試合の後にベンチ入りする場合(平成27年度追記)
 - *各試合の団体の礼は、試合ごとに行う。
 - *審判員(3名)の退場と同時に、次の審判員(3名)の入場を行う。
 - *試合終了のチームと試合前のチームが同時に試合場に入る団体の礼は行わない。
 - ①先鋒・次鋒は、あらかじめ別の場所で面をつけておく。
 - ②他の選手の防具等は、ベンチの後ろに置きそのまま試合場で相互の礼をする。
 - ③その後、先鋒は立ち位置へ、次鋒は、控え場所に行く。
 - ④相互の礼が終了後、監督がベンチに正座をしたら試合を開始する。(平成27年度追記)
 - ⑤中堅以降の選手は、畳の後ろに整列し1礼し、ベンチに座る。

3, 試合開始・終了時

- ・チームが相互の礼にあわせて、監督、補員、外部指導員も礼をし、監督同士で改めて礼をする。

4, 退場時

- ・相互の礼の後素早くベンチに戻り、全員整列した後、畳の後ろで1礼をしてベンチを出る。

5, 試合の中で

- (1) 応援は、拍手で行う。声援はしない。
- (2) 次の試合者以外は、ベンチから立たない。面をつけたまま座って待つ。

(3) 相手の反則に拍手はしない。

(4) 監督(指導者)は、「やめ」や「合議」の際、ベンチからの指示を出さない。

<試合場における約束事>

(1) 大会会場で

※選手控え室(更衣室)がある場合

- 1, 防具袋は、各チームでまとめて整頓しておく。防具袋は必ずふたをして中身が見えない状態にする。
- 2, 靴は、各自が靴袋を用意し防具袋の中にしまうか、チームで靴袋を用意しておく。靴を控え室やスタンド、通路に丸出しのまままで放置しない。

※スタンドで着替える場合

- 1, 観客席の前1列は、保護者の観戦や応援用にあけておき使用しないのが望ましい。
- 2, 着替えた防具袋は、イスの下にチームごとでまとめて置くのが望ましい。
- 3, 観客席後ろの通路や空きスペースには、荷物を置かない。保護者もシートを敷かない。

(2) 試合会場で

- 1, チームでの練習は、試合場の板目にあわせて全体が同じ方向を向いて行う。
- 2, 練習場に竹刀や防具を置いて場所取りをしない。
- 3, 練習後の防具(面・小手)、竹刀はチームでまとめておく。
- 4, 連絡等の放送が入ったら練習をやめその場に着座をして指示を聞く。
- 5, 大会試合場では、必ずベンチを確保し対戦チームが整列できるようにする。試合が終われば次のチームのためにベンチを譲る。

(3) 審判員として

- 1, 審判席では、足を組んだり腕組みをしたり大きな声で談笑はしない。団扇やセンスであおがない。
- 2, 審判席からの応援や指導はしない。
- 3, 次の試合にあたっている場合は、前もって着席しておく。選手を待たせない。
- 4, 試合開始は、チームが一礼をしてベンチについてから始める。(主審がしっかり判断)
- 5, 各地区での審判講習会等に積極的に参加をし、自己の研鑽につとめる。
(学校剣道連盟でも年2回の講習会を開催している。(連盟押印対象))